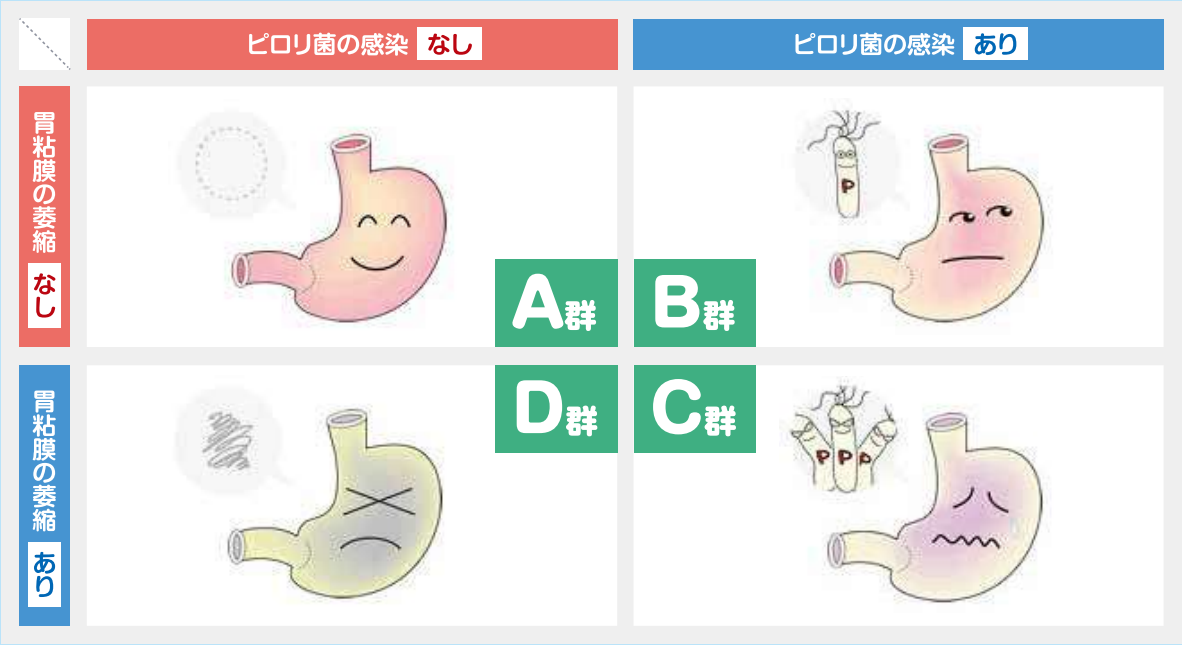
胃がんリスク検診（ABC検診）について

胃がんリスク検診（ABC 検診）とは、ピロリ菌感染の有無（血清ピロリIgG抗体）と胃粘膜萎縮の程度（血清ペプシノゲン値）を測定し、被験者が胃がんになりやすい状態かどうかを分類する検診法です。胃がんリスク検診（ABC 検診）はがんそのものを見つける検査ではありません。
胃がんにはピロリ菌感染が深くかかわっています。ピロリ菌感染のない人から胃がんが発生することはごくまれです。また、菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほどペプシノゲン値が低下し、胃がん発生のリスクが高まる傾向がみられます。



A群：健康的な胃粘膜です。胃がん発症リスクは極めて低いです。
B群：少し弱った胃粘膜です。
少数ながら胃がん発症リスクがあります。
◆胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意が必要です。
C群：弱った胃粘膜です。
胃がん発症リスクが高いタイプです。一度、内視鏡検査を受けましょう。
D群：かなり弱った胃粘膜です。
胃がん発症リスクがかなり高いタイプです。かならず内視鏡検査を受けましょう。

胃がんリスク検査において以下に該当される場合は、正しい判定ができない可能性がありますのでご注意ください。
・食道、胃、十二指腸疾患で治療中の場合
・胃薬や抗生剤を1ヶ月以内に服用していた方
・胃切除をされた方
・腎不全の方（目安として、クレアチニン3mg/dl以上）
・ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療を受けた方